

30

Anniversary

大阪口腔インプラント研究会 創立30周年



大阪口腔インプラント研究会

30 Anniversary

大阪口腔インプラント研究会 創立30周年記念例会

2016年11月12日(土)~13日(日)

プログラム

PROGRAM

大阪口腔インプラント研究会



会長ごあいさつ

大阪口腔インプラント研究会 会長

阪本 貴司



日々の研鑽はすべて患者のために

当会は昭和63年5月18日に第1回例会を開催してから30周年を迎えました。

この節目の時期に会長を拝命した事を光栄に思っています。

今回、30周年記念事業として11月12日に「30周年記念講演会・式典・祝賀会」を、13日には「30周年記念例会」を開催いたします。「記念祝賀会」にはお忙しい時期に、多数の皆様にご列席頂けましたこと、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございます。

「30周年記念例会」は第124回通常例会となりますが、今回は例会時間を拡大し、午前・午後に渡って開催いたします。午前のテーマを「組織再生の最前線」とし、現在の再生歯科医療の現状を東北大学大学院歯学研究科の江草 宏教授と浜松市ご開業の石川知弘先生に講演頂きます。午後からは「再生医療2020」をテーマとし、4年後2020年の近未来の再生治療の展望を、京都大学iPS細胞研究所の妻木範行教授と国立研究開発法人 理化学研究所の辻 孝教授に講演頂きます。

歯科治療も欠損修復から患者の治癒や再生能力を重視した治療に移行してきました。30周年の記念すべき例会に、我々の身近な分野になった再生医療がテーマとなったことを嬉しく思います。当会らしい忌憚のない活発な議論がなされなることを期待しています。

最後になりますが、日々の研鑽はすべて患者のためにあること我々は忘れてはなりません。この意味を常に肝に銘じ、今後も充実した活動を続けて参りたいと思います。今後も当会活動へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りますことをお願いし挨拶とさせていただきます。

A n n i v e r s a r y

大阪口腔インプラント研

公益社団法人 日本口腔インプラント学会
理事長
(日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座 教授)

渡邊 文彦



大阪口腔インプラント研究会発足30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また、日頃より本学会の指定研修施設の一つとしてご尽力頂いておりますことをお礼申し上げます。貴会は大阪、兵庫を中心とする臨床歯科医によって、歯科インプラントがまだ先端医療であった時期に、インプラントのみならず、歯科治療全般の研鑽を目的として昭和61年5月に発足したと伺いました。1994年からは公益社団法人日本口腔インプラント学会の指定研修施設として、インプラント治療の普及と進歩のための研修会や研究発表など活発な活動を続けられ、今日では350名の会員を擁するまで発展されました。これも歴代会長をはじめ、役員の方々のご尽力の賜物と深く敬意を表する次第です。

口腔インプラント治療は口腔機能の回復をはかり全身の健康維持に貢献を致しております。公益社団法人日本口腔インプラント学会では、学会員の口腔インプラント学における知識と技術の向上を目指し、またさらなる国民への質の高い医療を提供するべく活動を行っております。昨年度までに「インプラント治療とリスクマネジメント」「口腔インプラント治療指針2016」、「口腔インプラント学実習書」「口腔インプラント学学術用語集第3版」を発行し、卒前卒後インプラント教育の向上に努めてまいりました。また国民によりわかりやすい正しい情報提供としてホームページの作成と掲載も行い、国民へのインプラント治療の啓発活動も行って来ました。今後も、①医療安全の推進、②卒前卒後教育カリキュラムの構築と実施、③支部活性化と地域連携、④国民への口腔インプラントの情報提供と啓発、⑤学術向上と研究の推進の5つの重点活動をさらに推進して結果を出したいと思っています。

結びになりますが、大阪口腔インプラント研究会の皆様におかれましては、今後も歯科医療の発展のために、阪本貴司会長を中心に結束され、益々飛躍、発展をされますと同時に会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、創立30周年のご祝辞とさせていただきます。

研究会 創立30周年を祝して



公益社団法人 日本口腔インプラント学会
近畿・北陸支部 支部長
(大阪歯科大学高齢者歯科学講座 教授)

小正 裕

大阪口腔インプラント研究会が1986年に設立され本年5月に発足30周年を迎えられ心からお祝い申し上げます。

大阪口腔インプラント研究会は故阪本義樹先生が中心となってインプラント治療の教育、研究および臨床の発展のため設立されたとお聞きしております。30数年前に私の義父から故阪本義樹先生を紹介され、お会いする度にインプラント治療について熱く語られていたのを昨日の事のように思い出されます。それ以後、今日まで活発な活動が行われ現在は阪本貴司先生が会長に就任され会員数350名を超える日本有数の研究会として発展され心から敬意を表します。

阪本貴司会長とは先生が学生時代から私が教員の立場としてお付き合いが始まり、今日では日本口腔インプラント学会近畿・北陸副支部長として助けて頂いています。

臨床の現場では、口腔インプラント治療に対するニーズは増加する一方で、近年多く報告されているインプラントに関する医療事故により、患者は慎重になっていると考えます、つまり、この状況を逸脱するためにはインプラント治療に対してより術者の専門性が必須であり、安心、安全でレベルの高い良質な口腔インプラント治療を提供できる歯科医師の育成が急務であると推察されます。貴大阪口腔インプラント研究会と日本口腔インプラント学会の連携を高めることが、口腔インプラント治療の将来に一石を投じることが期待されます。

今後とも日本の口腔インプラントの発展のため、貴大阪口腔インプラント研究会の益々のご発展と日本口腔インプラント学会への皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。私のお祝いの言葉とさせていただきます。

プログラム Program

30周年記念講演会・式典・懇親会

日時 2016年11月12日(土)

会場 ホテル阪神 記念講演会・記念写真撮影 懇親会
10階 クリスタルルーム 10階 ボールルーム

15:30～17:00	記念講演会 宇野 正美氏
17:30～	記念写真撮影
18:00～	記念式典・懇親会

30周年記念例会・第124回例会

日時 2016年11月13日(日)

会場 大阪国際会議場12階 特別会議室

8:00～	受付開始
9:00～12:00	シンポジウムⅠ テーマ「組織再生の最前線」 座長 阪本 貴司先生
9:00～10:20	演者 江草 宏先生
10:30～11:50	演者 石川 知弘先生
12:00～13:00	昼食
13:00～17:00	シンポジウムⅡ テーマ「再生医療2020」 座長 江草 宏先生 阪本 貴司先生
13:00～14:30	演者 妻木 範行先生
15:00～16:30	演者 辻 孝先生
17:00～17:30	全体ディスカッション

Symposium I

シンポジウムI 組織再生の最前線



再生歯科医療を材料と生体から理解する

東北大学大学院歯学研究科
分子・再生歯科補綴学分野 教授

江草 宏

二十世紀半ばにBrånemark博士がオッセオインテグレーションを発見して以来、口腔インプラント治療は長い年月をかけて普遍的なものとなりました。さらに近年では、インプラント治療は「再生医療」という概念を取り入れながら発展し、「インプラント・再生治療」として、これまで適応が困難であった症例においても審美的な機能回復を可能にしつつあります。Academy of Osseointegrationは2010年に「生物・科学技術の進歩が口腔インプラント治療に与えるインパクト」と題したコンセンサス会議を行い、「近い将来、ティッシュ・エンジニアリングあるいは幹細胞技術はインプラント治療に確かな恩恵を与えるであろう」と報告しました(Int J Oral Maxillofac Implants. 2011)。それから約5年経った現在、この予想は的中しつつあるわけです。

このような世界的なインプラント・再生治療の流れを考えると、治療を成功に導くためには、もはやメーカーが提供するインプラントシステムの理解だけでは十分ではなく、これに加えて、骨補填材、生体活性因子、バリアメンブレン等の材料が組織再生の過程で生体に対して引き起こす反応(炎症、治癒、再生)を、細胞、さらには分子レベルでイメージできることがアドバンテージとなる時代になっているのです。

本講演では、インプラント・再生治療の過程で生じるであろう生体反応を理解するために必要な最低限の基礎知識を、できるだけ平易な言葉でお伝えしてみたいと思います。これによって、次演者の石川知弘先生の素晴らしい臨床例、そしてその後の妻木範行先生ならびに辻孝先生が示される夢のある近未来の再生医療への理解が深まることを願っております。

略歴

1972年、広島生まれ。1998年に広島大学歯学部卒業後、1999年香港大学歯学部研究助手となる。2002年に広島大学大学院歯学研究科で歯学博士を取得後、日本学術振興会特別研究員としてUCLAワイントロープ研究所に勤務。2004年に大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第一教室助手、2007年に同助教。2014年から東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野 教授。

広島大学歯学部客員教授、昭和大学歯学部客員教授、九州大学歯学研究院非常勤講師、長崎大学歯学部非常勤講師。大阪大学歯学研究科招聘教員。

日本補綴歯科学会専門医・指導医。日本再生医療学会認定医。主な受賞は、2002年に国際歯科研究学会(IADR)エドワード・ハットン賞第一位、2004年にIADRアーサー・フレッチェ最優秀若手歯科補綴学研究者賞、2011年に大阪大学功績賞、2012年にIADR最優秀若手科学者賞、2013年に大阪大学総長奨励賞など。

Symposium I

シンポジウムI 組織再生の最前線

歯科臨床における再生治療の現状と課題
～あきらめない歯周治療とインプラント治療～

5-D Japan ファウンダー

石川 歯科

石川 知弘

歯周組織再生療法が臨床に応用されるようになって、25年以上が経過している、当時は非吸収性の膜を縫合によって歯に固定し歯周組織再生の妨げになる上皮のダウングロスを防ぎ再生の場を維持することによって目的を達成することを目指した。しかし殆どの症例においてフラップは隣接面で裂開し、術後の管理状態によっては十分な結果を得られない場合もあった。その後EMD, PRP, rh-PDGF,のような細胞に働きかけ治癒を促進させることによって歯周組織を再生する方法が開発され国内外で使用されるようになり、手術は比較的シンプルになったが、依然として他を圧倒する成績を示す方法が現れておらず、どれもが術者の技量によって結果に大きな差が生ずる処置であると考えられる。

インプラント治療は欠損補綴において他の治療法にはない大きな治療効果を持っているが、一つ間違えると患者に大きな損失を与えてしまう可能性を持っている。今日失われつつあった信頼を取り戻す為には臨床家一人一人が、目の前の患者に対して、適切に応用していく以外に方法はない。患者にとってインプラント治療において求めることは、自然な外観で快適に長期にわたって機能する歯を出来るだけ低い侵襲と短い期間で得ることであろう。歯を失えば、その状態に応じて必ず歯槽骨は吸収する。また長期にわたり可撤性義歯を使用された場合さらに吸収は進むであろう。したがってインプラント治療を成功させるには多くの場合目的を達成するためには歯槽骨の再生が必要になる。Guided bone regeneration法は骨移植材を応用することにより比較的侵襲が低下し、臨床家にとって実施しやすい処置である、紹介されて20年以上が経過するが、現在までに膜の改良、スペースを維持する方法、フラップマネージメントの進歩により、その適用範囲が拡大されている。本講演では再生療法によって、進行した歯周病罹患歯をどこまで救えるのか、またインプラント治療にどのようなメリットがもたらされるか、そして患者にとってどのような恩恵がもたらされるかを、症例を通して検討したい。

略歴

1988年 広島大学歯学部卒業、広島大学歯学部口腔外科第一講座

1990年 浜松市内勤務

1996年 静岡県浜松市にて石川歯科開業

2008年 5-D Japan 船登彰芳、北島一、福西一浩、南昌宏 と共に設立

5-D Japanファウンダー、日本臨床歯周病学会指導医、日本歯周病学会会員、日本口腔インプラント学会会員、日本補綴歯科学会会員、アメリカ歯周病学会会員、AO (Academy of osseointegration) 会員、OJ (Osseointegration Study Club of Japan) 副会長、静岡県口腔インプラント研究会 副会長

Symposium II

シンポジウムII 再生医療2020



iPS細胞技術を使った関節軟骨欠損の再生治療研究

京都大学 iPS細胞研究所
増殖分化機構研究部門 細胞誘導制御学分野 教授

妻木 範行

軟骨再生治療において、充分量の高品質な軟骨を移植用に供給することが求められている。人工多能性幹細胞(iPS細胞)は、あらゆるタイプの体細胞に分化できる性質(多能性)と、ほぼ無限に増殖できる(自己複製能)能力を持つ。我々はヒトiPS細胞を高品質な軟骨細胞へと分化誘導し、さらに軟骨組織を作る方法の開発を行っている。そして、それを関節軟骨の欠損部に移植する再生治療の実現を目指しており、これらの取り組みを紹介したい。

略歴

京都大学 iPS細胞研究所
増殖分化機構研究部門 細胞誘導制御学分野 教授
専門分野:骨軟骨代謝、整形外科、再生医学
1989年 大阪大学医学部 卒業
1989年 大阪大学医学部附属病院および関連病院にて整形外科

研修

1992年 大阪大学大学院医学研究科博士課程 入学
1996年 米国国立保健研究所(NIH) visiting fellow
1998年 大阪大学医学部 助手(整形外科)
1999年 大阪警察病院 整形外科副医長
2002年 大阪大学大学院医学系研究科 助手(整形外科)
2007年 同 骨・軟骨形成制御学 独立准教授
2009年 独立行政法人化学技術振興機構(JST)
CREST研究代表
2011年 京都大学 iPS細胞研究所 教授
現在に至る
2013年 日本医療研究開発機構(AMED)
再生医療実現拠点ネットワークプログラム 拠点長

資格

1989年 医師免許
1996年 医学博士の学位授与(大阪大学)
1996年 日本整形外科学会認定医
2004年 エックス線作業主任者免許

受賞

1996年 日本軟骨代謝学会賞
1997年 日本結合組織学会賞
2000年 日本整形外科学会奨励賞
2008年 日本骨代謝学会研究奨励賞
2014年 日本骨代謝学会学術賞

Symposium II

シンポジウムII 再生医療2020



未来の歯科治療としての歯の再生

国立研究開発法人 理化学研究所
多細胞システム形成研究センター
器官誘導研究チーム、チームリーダー
株式会社オーガテクノロジーズ、取締役

辻 孝

歯科医療は、齲蝕、歯周疾患の治療をはじめ、これらの疾患により歯を喪失した場合の治療方法として入れ歯やブリッジ、歯科用インプラントなどを用いた歯の機能代替治療も広く普及しており、国民の健康維持に大きな役割を果たしている。歯科再生医療における大きな目標は、喪失した歯を再生により取り戻す「歯の再生治療」である。歯の再生治療は、審美的にも、生理的、機能的にも完全な回復につながる新たな生物学的治療技術として期待されている。外胚葉性器官のひとつである歯は、胎児期の上皮・間葉相互作用によって誘導された歯胚から発生する。歯を再生するためには人為的な細胞操作によって歯胚を再生し、生物の発生システムを利用して再生歯を創り出す戦略からすでに30年以上にわたり研究が進められてきた。

私たちは、正常発生可能な歯胚を再生するための三次元的な細胞操作技術である「器官原基法」を開発した(Nature Methods, 2007)。さらに、この再生歯胚を成体の歯の喪失部位へ移植することにより、再生歯が萌出、咬合し、骨のリモデリング能を有する歯根膜を介して骨と連結機能すると共に、外部からの侵害刺激を中枢に伝達しうる神経機能も再生することを明らかにした(PNAS, 2009)。また再生歯胚から歯と歯根膜、歯槽骨を有する再生歯ユニットを移植すると、骨性結合により生着し、再生歯胚と同様の機能を有することを明らかにした(PLoS ONE, 2011)。さらに最近、骨結合型インプラント治療の改善にむけて、歯周組織を有するバイオハイブリッドインプラントを開発し、チタンインプラントと歯槽骨を歯根膜で結合させ、歯の移動や知覚の回復を可能とした(Sci. Rep. 2014)。さらに最近、歯胚を力学的に分割することにより、複数の機能的な歯を再生できることを明らかにした(Sci. Rep. 2015)。

本講演では、未来の歯科治療としての歯科再生医療の実現に向けた基礎研究の戦略とその進展を紹介すると共に、その現状と課題を考察する。

略歴

新潟大学大学院理学研究科修了、九州大学大学院理学研究科博士後期課程を満期退学。山之内製薬(当時)研究員(昭和61～平成元年)、日本たばこ産業(株)医薬探索研究所主任研究員(平成6～13年)を経て、平成13年より東京理科大学基礎工学部、助教授。平成19年より教授。平成21年より東京理科大学・総合研究機構、教授。同大学院・基礎工学研究科、教授を兼務。平成26年より独立行政法人理化学研究所、発生・再生科学総合研究センター、グループディレクター、11月より同研究所、多細胞システム形成研究センター、器官誘導研究チーム、チームリーダー。博士(理学)。

平成20年より、株式会社オーガテクノロジーズ、取締役を兼任。平成20年、フランス・ルイ・パスツール大学、客員教授、平成21年より東京歯科大学、客員教授、平成26年より東京理科大学、客員教授、平成27年より北里大学医学部、客員教授、平成28年より関西学院大学、客員教授。日本歯科再生医学会・理事、日本再生医療学会・評議員。Nature Publishing Group “Scientific Reports” Editorial Board Member。

大阪口腔インプラント研究会 30年の歴史

2016年11月12日に開催された創立30周年記念式典にて紹介された内容から抜粋しています。

1972年11月5日
日本デンタルインプラント研究会 (JAID) 発足
1984年9月22日～23日
日本デンタルインプラント研究会 (JAID)
日本歯科インプラント学会 (JAID) 共同開催
1986年
日本口腔インプラント学会発足
大阪口腔インプラント研究会 5月18日 発足
1994年
大阪口腔インプラント研修セミナー 1期生
2005年
日本歯科医学会 専門分科会
社団法人 日本口腔インプラント学会
2010年
公益社団法人 日本口腔インプラント学会

図1
大阪口腔インプラント研究会は日本口腔インプラント学会
発足と同じ年の1986年5月18日に設立された。



写真2
第38回例会 1997年頃
大阪厚生年金病院（現在のJCHO大阪病院）会議室



写真4
1996年5月19日 設立10周年記念講演会・式典
大阪国際交流センター
記念講師左から中村社綱先生、井上 孝先生、小野善弘先生



写真1
1986年5月発足時の設立総会が開催された
大阪市北区パーマリー・インホテル。
現在は北新地のイタリア料理店となっている。



写真3
インプラント研修セミナー1期生の豚骨実習 1994年



写真5
インプラント研修セミナー12期生の豚骨実習 2005年

大阪口腔インプラント研究会 30年の歴史



写真6
日本口腔インプラント学会 2006年 新潟市にて



写真7
2006年5月27日・28日 設立20周年記念講演会・式典
ホテルアウィーナ大阪にて
記念講師は内藤正裕先生、宮本泰和先生



写真8
2006年5月 設立20周年記念講演会・第6回日韓学術交流会
実行委員の先生ら

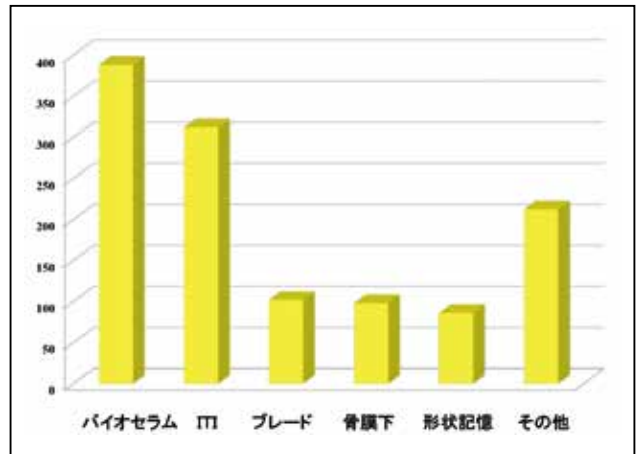


写真9
現在まで使用したインプラントについて大阪口腔インプラント研究会会員へのアンケート調査結果
1986年8月実施
22名の会員が回答 n=1198症例
平均臨床経験年数 5年1ヶ月 (5ヶ月～15年)
1人の平均症例数約51症例



写真10
大阪口腔インプラント研究会会員数の推移
大阪口腔インプラント研究会 2016年5月現在
公益社団法人 日本口腔インプラント学会 指導医4名、
専門医30名、専修医42名
会員：特別会員20名、一般会員329名、計349名



写真11
現在の定例会 大阪国際会議場12階会議室にて年4回開催
100名～120名の会員が参加 2016年

大阪口腔インプラント研究会 30年の歴史



写真 12
2009年に当会が作成した口腔インプラント手帳
2012年 実用新案提出



写真 13
サイナスリフト手術実習模型の開発
2013年度 大阪口腔インプラント研修セミナー 20期生より
使用している



写真 14
役員座談会 30周年を迎えて 当時を振り返る
2016年5月 大阪国際会議場にて
進行：阪本貴司会長 1987年卒
参加者：佐藤文夫前会長・現相談役 1961年卒、
阿保幸雄前副会長・現相談役 1968年卒、高田勝彦前副会長・現相談役 1973年卒、
吉田春陽監事 1975年卒、奥田謙一専務理事 1975年卒、山野総一郎副会長 1990年卒

大阪口腔インプラント研究会 創立 30 周年記念講演会・式典・懇親会スナップ写真



記念講演会司会、久保茂正先生



記念講演会講師、宇野正美氏



懇親会司会
奥田謙一先生、和田貴美代先生



開会の挨拶
山野総一郎実行委員長



阪本貴司会長挨拶



来賓挨拶
渡邊文彦学会理事長



来賓挨拶
川添堯彬前理事長



受付スタッフ



乾杯、鏡割り、トラッキーとラッキーと



トラッキー司会



来賓の皆様



会員の皆様



実行委員の皆様



重鎮の先生方



功労者の先生方



ピアノ演奏、井之元加奈様



ソプラノ歌手、湯川夏子様



閉会の挨拶、勝喜久副実行委員長



2016年11月12日 大阪口腔インプラント研究会 創立30周年記念祝賀会 於：ホテル阪神

最近 10 年間の世界の出来事

2006 年 平成 18 年

- 1 月 ライブドアの堀江貴文社長が証券取引法違反容疑で逮捕
- 1 月 各地で大雪による被害発生
- 2 月 神戸空港が開港
- 2 月 表参道ヒルズがオープン
- 3 月 第 1 回ワールド・ベースボール・クラシック (WBC) が開幕
- 6 月 FIFA ワールドカップ開催
- 8 月 亀田興毅が 10 代で WBA 世界王者に

2007 年 平成 19 年

- 2 月 藤原紀香と陣内智則が結婚
- 2 月 第 1 回東京マラソン開催
- 4 月 43 年ぶりとなる全国学力調査実施
- 5 月 赤ちゃんポストの設置を認可
- 5 月 ZARD の坂井泉水死亡
- 7 月 新潟県中越沖地震が発生

2008 年 平成 20 年

- 3 月 複合施設赤坂サカスがグランドオープン
- 5 月 小室哲哉が 5 億円詐欺事件で逮捕
- 8 月 北京オリンピック開幕 (金 9 銀 6 銅 10)
- 10 月 小林誠・益川敏英・南部陽一郎の 3 名がノーベル物理学賞受賞
- 10 月 岐阜県に、国内最大級となるダム (徳山ダム) が完成
- 11 月 阪急西宮ガーデンズが開業
- 12 月 飯島愛が自宅で急死

2009 年 平成 21 年

- 3 月 MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島完成
- 4 月 鹿児島市の桜島が爆発的噴火
- 5 月 第 1 回目の大型連休 (ゴールデンウィーク)
- 5 月 裁判員制度による初の裁判が始まる
- 6 月 キング・オブ・ポップ マイケル・ジャクソンが死去
- 7 月 国際宇宙ステーションで実験棟「きぼう」が 24 年かけて完成
- 7 月 女優・森光子が国民栄誉賞受賞

2010 年 平成 22 年

- 1 月 日本年金機構が発足
- 2 月 バンクーバー五輪開催 (銀 3、銅 2)
- 6 月 サッカーワールドカップ南アフリカ大会で日本大健闘のベスト 16
- 6 月 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
- 6 月 高速道路一部無料化始まる

最近 10 年間の世界の出来事

- 7月 芥川龍之介賞に磯崎憲一郎、直木三十五賞に北村薫が選出
- 8月 各地で猛暑、熱中症患者相次ぐ
- 10月 新国際線ターミナルが供用開始、羽田空港国際線ターミナル駅が開業

2011年 平成 23年

- 2月 任天堂初の3D携帯ゲーム機「ニンテンドー 3DS」発売
- 3月 マグニチュード9.0の東日本大震災発生
- 3月 ジャスコとサティがイオンの名称に統一される
- 3月 東北新幹線で新幹線E5系電車がデビュー 最速列車「はやぶさ」運行開始
- 6月 小笠原諸島がユネスコ世界自然遺産に登録
- 7月 地上デジタル放送に完全移行
- 7月 2011 FIFA 女子ワールドカップドイツ大会で、サッカー日本女子代表が初優勝

2012年 平成 24年

- 2月 ホイットニー・ヒューストン急死
- 2月 家電メーカーが壊滅的な業績悪化
- 3月 「ブリタニカ百科事典」が書籍版刊行の打切り発表
- 5月 Facebook ナスダック上場と株価急落
- 9月 「LINE」の会員数、全世界で6000万を突破 国内は2800万人に
- 9月 中国各地で反日デモ

2013年 平成 25年

- 2月 グラム・タモン地区で無差別殺傷事件
- 3月 TPP交渉参加を表明
- 4月 ボストンマラソンで爆発
- 5月 長嶋茂雄氏と松井秀喜氏に国民栄誉賞
- 6月 富士山が世界文化遺産に
- 7月 高血圧治療薬のデータ改ざん
- 8月 イチロー選手が日米通算4000安打達成
- 9月 2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に
- 10月 消費税8%への引き上げが決定

2014年 平成 26年

- 1月 北京行きマレーシア航空機が消息絶つ
- 3月 エボラ出血熱でWHOが緊急事態宣言
- 3月 ロシアが「クリミア共和国」を国家承認、編入。ウクライナ危機深刻化
- 4月 韓国で旅客船「セウォル号」が沈没
- 7月 ウクライナでマレーシア航空機が撃墜され298人死亡
- 8月 勢力を拡大する「イスラム国」に米軍がイラクで空爆開始
- 10月 ノーベル平和賞にパキスタンのマララさんら
- 11月 米中間選挙でオバマ政権与党の民主党が大敗

最近 10 年間の世界の出来事

2015 年 平成 27 年

- 1 月 「イスラム国」日本人を殺害
- 3 月 北陸新幹線が開業
- 9 月 安全保障関連法が成立
- 9 月 関東・東北豪雨 8 人死亡
- 9 月 ラグビーW杯開幕 日本、南アフリカから歴史的勝利を挙げる
- 10 月 建物の杭データ偽装が発覚
- 10 月 大村さん梶田さんノーベル賞受賞
- 10 月 マイナンバー始まる

2016 年 平成 28 年

- 1 月 廃棄物処理法違反で「ダイコー」を家宅捜索
- 1 月 長野県軽井沢町でバスが崖下に転落、14 人が死亡
- 2 月 清原和博容疑者覚せい剤取締法違反で逮捕
- 3 月 米オバマ大統領がキューバ訪問
- 4 月 熊本県で M6.5 の地震が発生、20 万人が被災
- 5 月 米オバマ大統領、現職の米大統領として初めて広島を訪問
- 6 月 安倍晋三首相、消費税率 10% への引き上げ延期を表明
- 6 月 米フロリダ州のナイトクラブで銃撃、50 人が死亡
- 6 月 東京都の舩添要一知事、公私混同問題の責任を取り辞職



大阪口腔インプラント研究会

30周年実行委員長 山 野 総一郎

大阪口腔インプラント研究会30周年を終えて

早いもので、私が歯科医師となって27年が経とうとしている。

30周年を迎えた大阪インプラント研究会には卒後間もない頃から関わらせていただいたので、まさに私の歯科医師としてのキャリアそのものであると言える。

私の学生時代を振り返ると、大学でインプラント治療が行われていないばかりか、反対派の教官が多く、インプラントはむしろ忌み嫌われている存在であった。と言うのも、今から思うと無理からぬところもあり、埋入された予後不良の骨膜下インプラントやブレードタイプのインプラントをもっぱら撤去させられていたのは大学であったという事情がある。

一方で、当時の私は若さゆえのことなのか、「インプラントはダメだ」と言われるとかえってその先進性に漠然と惹かれ、卒後インプラントを学びたい気持ちだけは強かった。そして、冒頭部分に戻るわけだが、研究会を通して私とインプラントとの関わりが始まったのである。その当時のインプラントはまだ発展途上で、いかにして安定した骨結合を得るかということが重要なテーマであり、「オッセオインテグレーション」という言葉が合言葉のように盛んに用いられていた。やがてこれが解決されると、その後はあれよあれよと言う間に様々な新知見が世に出て、また術式も洗練されて、成熟期を迎えることになり、今日では、インプラントを臨床に用いることに反対する意見も無くなってきた。このジェットコースターのような時代の流れに関われたことは歯科医師としてとても幸運なことであった。

大阪口腔インプラント研究会は、何のコンセンサスもない時代に開業医により創設されていたわけで、当時のご苦労を思うと頭の下がる思いがし、また、その先見性は尊敬に値する。翻って現在の私たちはどうだろうか？ハードルの下がったインプラントは巷に溢れかえり、配慮を欠いた治療はインプラント周囲炎などの新たな課題を突きつけているが、明確な解決法は未だ道半ばである。

願わくは、創設当時の先生方に恥じぬよう、新たな壁を乗り越え40周年、50周年と大阪口腔インプラント研究会の系譜を受け継いでいく一助になればと思う。



大阪口腔インプラント研究会
30周年実行委員会

会 長	阪本 貴司
実行委員長	山野総一郎
副実行委員長	勝 喜久
委 員	飯田 格
	奥田 謙一
	岸本 博人
	木村 正
	久保 茂正
	小室 暁
	小山 直浩
	高田 光彦
	寺嶋 宏曜
	中島 康
	濱田 傑
	藤本 佳之

大阪口腔インプラント研究会

平成28年度 役員

会 長	阪 本 貴 司			
副 会 長	山 野 総一郎			
専務理事	奥 田 謙 一			
理 事	総 務	長 田 卓 央		
	〃	木 村 兼 正		
	〃	椋 梨 兼 彰		
	〃	阿 保 淳 一		
	学 術	藤 本 佳 之		
	〃	濱 田 傑 久		
	〃	勝 喜 久 正		
	〃	久 保 茂 正		
	〃	中 島 康 曜		
	〃	寺 嶋 宏 彦		
	広 報	白 井 敏 彦		
	〃	西 川 和 章		
	〃	高 田 光 彦		
	〃	小 山 直 浩		
	会 計	小 室 暁 (研修施設)		
	〃	岸 本 博 人		
	〃	飯 田 格		

監 事	吉 田 春 陽
〃	石 見 隆 夫
相 談 役	佐 藤 文 夫
〃	阿 保 幸 雄
〃	高 田 勝 彦

施 設 長	阪 本 貴 司
副施設長	石 見 隆 夫
運営委員	久 保 茂 正
	木 村 正
	小 室 暁
	岸 本 博 人
	飯 田 格

OSAKA ACADEMY OF ORAL IMPLANTOLOGY VOL.31

—— 非売品 ——

発 行 / 平成29年4月30日

発 行 所 / 大阪口腔インプラント研究会

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-9-20

大阪マルビル 2F 事務局

TEL(06)6744-1305

FAX(06)6744-7735

発 行 者 / 阪 本 貴 司

編 集 委 員 / 勝 喜 久

中 島 康

白 井 敏 彦

濱 田 傑

印 刷 / 有限会社 デザインスタジオブレアート

TEL(078)221-8136

FAX(078)261-3782
